

備前焼吐水口

温泉対応タイプ

ひとつひとつ手作りの風合いが活かされた
備前焼で作った吐水口

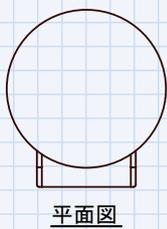


接続口径：20A
吐水量：30ℓ/min

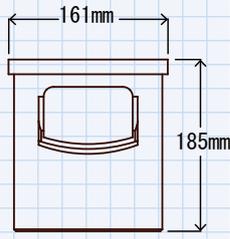
ひだすき
備前焼：緋襷

緋襷は、うす茶色の素地に、「たすき」のようにかかった模様です。
素地に藁を巻いて焼くことで、窯の中で藁の炎にあたった箇所は、緋色に発色します。

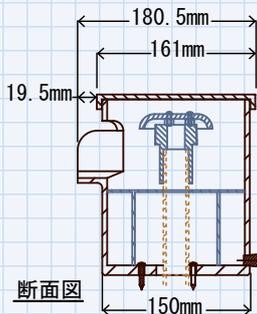
材質 本体：備前焼（せつ器）
内部：PVC製
取付ビス：チタン製



平面図



正面図



断面図



焼物ですので色や模様については
ひとつとして同じものが無いため
ホテル・旅館などの
小・中規模の浴槽にも最適です。

焼物 + 塩ビ製なので
どんな泉質の温泉にも
対応可能です。

壺風呂やヒノキ風呂など
和風テイストな浴場の
雰囲気におすすめです。

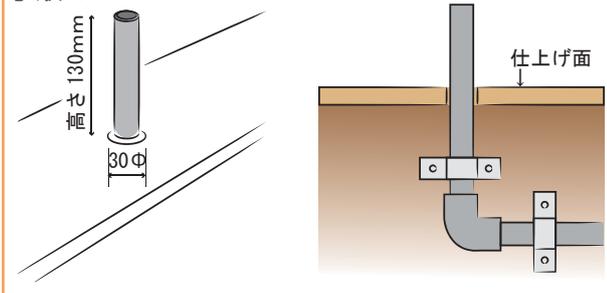
現場調整型の
石製吐水口に比べると
加工などが無いので
簡易に施工が行えます。



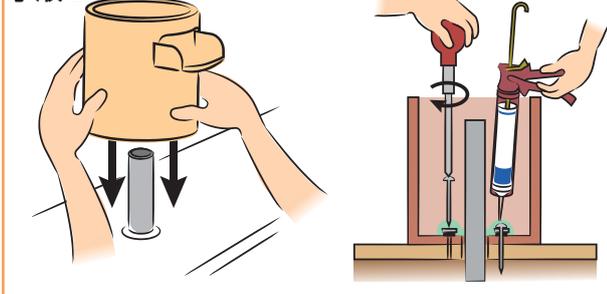
岡山県で陶芸家として活動している
山村富貴子さんに協力いただき
本製品を開発しました。

施工方法について

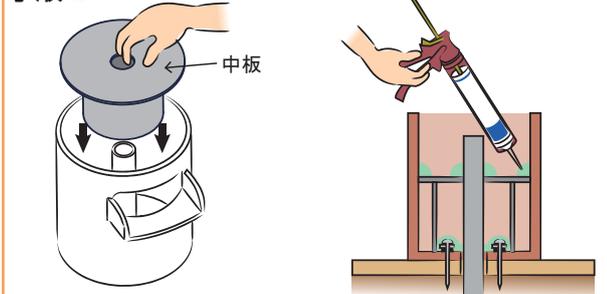
手順 1



手順 2



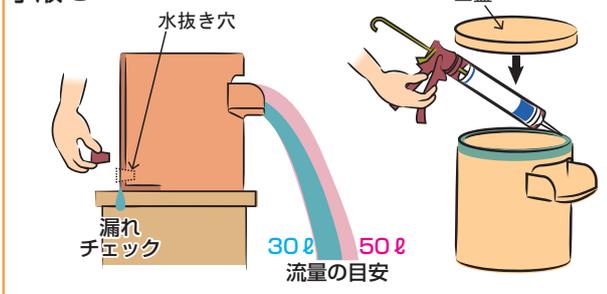
手順 3



手順 4



手順 5



浴槽脇の框面に直径 30mm の穴を開け、内部に補給水ユニットからの補給するための 20A の VP 塩ビ配管を施工して下さい。仕上げ面から 130mm の塩ビ配管をたちあげます。補給時に配管が振動しないように配管支持金物などで固定して下さい。

吐水口本体を配管の上からセットします。付属のチタンビス 3 本を手回しのプラスドライバーで固定します。電動ドライバーは本体が破損する場合がありますので使用しないで下さい。框の材質に合わせてアンカープラグなどを準備して使い分けして下さい。ビス固定ができましたらビス周辺と塩ビ管の開口部をコーキングします。

中板を開口部から内部にセットします。本体内部の中板の外側と内側にコーキング処理をします。下部に水漏れが無い様にコーキングの量を多めにシーリングして下さい。

塩ビ管末端の外側と内部キャップの内側に塩ビ用接着材を塗布して接着します。内部キャップを接着したキャップ頭の高さは中板から 78mm です。手順③のコーキングと手順④の接着の完全硬化に 24 時間待機します。

上蓋を開けたまま通水テストを行います。30ℓ/min を目安にバルブで開度を調整して浴槽へ補給してください。吐水口本体の背面にあるゴム栓を取り外し水抜き穴から漏れが無いかが確認します。漏れがある場合は手順③のコーキングを再度行います。通水が問題なく行えたら上蓋をコーキングで接着して施工完了となります。